

研究論文

保健体育科教員養成課程で提供されるべき 体育心理学関連科目の特徴

—九州地区教員養成系学部開講授業の分析結果からの考察—

山津 幸司^{*}, ^{**}

Characteristics of "Psychology of Physical Education" in the Teachers'
Training Course at National Universities :
Considerations from Analyses of Coursework Syllabi in Kyushu

Koji YAMATSU^{*}, ^{**}

【要約】

国立大学はミッションの再定義を契機とし、特に教員養成学部を抱える国立大学では地域の教員養成を担うべきとされている。中央教育審議会でも地域の学校教育に貢献できる教育学部を目指し、学部や教職大学院での教員養成の高度化、附属学校園の改革等を通じた教員養成学の確立が求められている。本研究では、九州地区国立大学の保健体育科教員養成課程で開講されている体育心理学関連科目を実態調査し、今後のあり方を考察した。

【キーワード】

スポーツ心理学, 教員免許, 大学講義, カリキュラム, シラバス

1. 研究の背景と目的

1-1. 国立大学や教員養成学部の現状

我が国の国立大学は、2013年の国立大学改革プラン、その後のミッションの再定義を契機として機能分化を強く求められるようになった。そのような流れの中で、各国立大学の教員養成学部では、教員免許状の取得を卒業要件としないいわゆるゼロ免課程の廃止、地域の教員養成課程として自校卒業生による教員占有率の拡大、教員就職率向上などの成果が問われることとなり、改革が進められている。

上記を受けて、中央教育審議会では2017年の答申の中で地方国立大学の教員養成学部が中心となり、優秀な教員の創出、効果的な教員研修の手法開発と実施協力を通じて、地域に役立つ教員養成学の確立が期待されている。

筆者は、これまでゼロ免課程を有する文化教育

学部の教員として、保健体育科の教員養成の一翼を担い、「スポーツ心理学」という講義を担当してきた。本講義は中学および高等学校の保健体育科教員だけでなく、日本体育協会スポーツ指導員、医療機関などで運動指導を行う健康運動指導士の養成も同時に行っており、学校教育の場面以外にも適用可能な幅広い内容を扱う必要があった。一方、ゼロ免課程廃止により新しく移行した教育学部では担当科目が「体育心理学」と名称変更し、中学および高等学校の保健体育科教員養成に特化した内容が求められることとなった。

そこで本研究の目的は、九州地区の教員養成学部にある保健体育科の体育心理学関連科目の開講状況やシラバスからよみとれる講義内容を分析検討し、教員養成学部で教えるべき「体育心理学」の講義内容について考察することとした。

*佐賀大学教育学部

**佐賀大学大学院医学系研究科

2. 方法

研究対象は、教員養成課程にて中学校及び高等学校の保健体育科教員免許を卒業要件として取得が義務づけられている九州地区の国立大学8校(福岡教育大学, 佐賀大学, 長崎大学, 熊本大学, 大分大学, 宮崎大学, 鹿児島大学, 琉球大学)における体育心理学関連科目のシラバス10科目であった。2018年11月時点で各大学のホームページから体育心理学関連科目を検索し, 入手できた10科目のシラバスを解析対象とした。なお, 2018年度シラバスにて検出できなかった場合は前年の2017年度シラバスを解析対象とした。分析に用いた全シラバスのURLは巻末(付録)に記載した。

現時点では, 改組後の教育学部の中で改組前の学生のためにゼロ免課程を対象とした体育心理学関連科目も開講されている場合があったが, 本研究では保健体育科教員養成の科目としての体育心理学の講義内容を検証したかったため, 分析対象には加えていない。

3. 結果

3-1. シラバス分析の主な結果(表1)

分析対象となった10科目のうち, 専任での担当は8科目(80.0%)であった。また, 授業担当者が九州スポーツ心理学会の会員である場合も8科目(80.0%)であった。

開講時期は前期と後期がそれぞれ5科目(50.0%)ずつであり, 対象学年は2年生以上が5科目(50.0%), 3年生以上も5科目(50.0%)であった。

また, 保健体育科の教員養成に特化した内容として開講されているとシラバスから判断できたのは3科目(30.0%)のみであった。

授業の評価は全科目が複合または総合的な観点で行われていたが, 個別ではレポートや課題提出が7科目(70.0%), テスト実施が6科目(60.0%), 小テスト実施が4科目(40.0%), 発表やプレゼンが1科目(10.0%)の評点に基づき評価を行っていた。

3-2. 講義内容に関する結果(表2)

授業で指定され用いられている教科書・参考図

書は「新版運動指導の心理学(杉原, 2008)」が最多の4科目(40.0%)であった。杉原隆氏が著書または编者である教科書・参考図書の使用は6科目(60.0%)と最多であった。教科書(参考図書のみ記載の場合あり)を指定せず配布資料の配布のみが4科目(40.0%)であった。

講義内容の分析結果から, 全10科目中8科目で扱われていたのは「動機づけ」「スポーツ・メンタルトレーニング」に関する内容であった。また, 7科目で扱われていたのが「運動学習」「目標や目標設定」「スポーツ集団」に関するものであった。その他では「緊張のコントロールやストレス対処」を5科目が, 「イメージ」を4科目が, 「積極的思考, 認知再構成」と「運動の好き嫌い」を3科目が, 「性格」と「競技不安」を2科目が扱っていた。

4. 考察

4-1. 授業形態に関する考察

九州地区の教員養成学部にある保健体育科の体育心理学系科目のシラバスを収集し分析した結果, 専任教員や九州スポーツ心理学会に所属し専門性が高いと思われる教員が授業を担当している状況が明らかとなった。体育心理学は目に見えない心理事象を要因として扱うことから, その説明には専門性を要すると考えられるため, 現時点では体育心理学の専門性を有する担当者が多く授業実施している点は極めて望ましいと考えられた。

開講時期は前期と後期で半々と偏りはなく, 対象学年も2年生以上と3年生以上でそれぞれ半数であった。教員養成学部では3年時に学外の教育実習を行うことが多いため, 理想的には2年生時に受講させるのが望ましいと思われる。

体育心理学を教員養成に特化した内容にアレンジし開講されていると思われるのは3科目のみであった。しかしながら, シラバスのみで教員養成に特化した内容かを判断するのは難しく, この点は授業担当者から直接ヒヤリングするなどして適切に評価を行い結論づけるべきであろう。

授業の評価については, レポートや課題提出が約7割の科目で課されており, テストや小テストを頻回に実施する科目も少なくなかった。心理理論

や心理現象を深く理解させ、教育現場で心理理論を活用できる教員を養成しようという担当教員の強い意図が読みとれた結果であると考えた。

4-2. 講義内容に関する考察

授業で指定され活用されている教科書・参考図書は「新版運動指導の心理学(杉原, 2018)」が4科目で採用され最多であった。杉原氏は東京学芸大学の教授を務めた傍ら、日本スポーツ心理学会の理事等で長年の功績があり、体育心理学やスポーツ心理学に造詣の深い研究者の一人である。筆者も本書を授業で教科書指定させてもらっている。本教科書は体育心理学で不可欠な運動学習と動機づけを体系的に解説できている大変すばらしい著作であると思う。一方で、運動学習の理論的背景であるスキーマ理論等の説明が少し省略され過ぎており、体育心理学の初学者である学部生の理解を深めるのが難しいと思われる課題も残っている。この部分に関しては、授業で補足すべき部分であると感じている。今後は、杉原氏の著作を基礎として、教員養成学部で体育心理学を担当する教員がより質の高い教科書や教材を開発していくべきと思われた。

講義内容の分析結果から、「動機づけ」「スポーツ・メンタルトレーニング」「運動学習」「目標や目標設定」「スポーツ集団」に関するものが多く扱われていた。また「緊張のコントロールやストレス対処」「イメージ」「積極的思考、認知再構成」「運動の好き嫌い」「性格」「競技不安」などもバランスよく導入し解説していくべきであると思われた。ここでもシラバスの表記のみから分類する作業は難しく、適切な評価を行うべきであると思われる。また、中学校と高等学校の保健体育を対象とするため、授業としての学校体育と課外活動での運動部活動で活用できる内容をそれぞれ解説すべきであろう。

最後に、体育心理学という科目は、保健体育科の教員免許法では「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学」の区分であり、選択必修として開講されることが多い。筆者の所属する佐賀大学でも「体育概論(体育原理)、体育心理学、

体育経営管理学」の3科目から1科目2単位選択必修となっている。選択必修であるということは、保健体育科の卒業生全員が体育心理学を学習するわけではないこと意味する。そのため、担任が可能な範囲で多くの学生に履修を促したり、必修である保健体育科教育法の中で指導上の工夫として体育心理学的アプローチを取り扱うような工夫も必要になってくると思われる。

4-3. 本研究に関わる今後の課題

本研究では、九州地区の各国立大学のホームページより検索し得たシラバスに基づき分析を行った。前述のように、シラバスから授業内容を適確に理解することは難しい。そのため、本研究の結果が真に正しく評価できていると考えるのは危険である。今後、授業担当者に直接ヒヤリングを行い、内容を適切に把握したうえで議論を進めていくべきであろう。

九州地区には九州スポーツ心理学会という団体があり、九州地区のスポーツ心理学の研究や教育を促進する役割を担っている。本学会などがイニシアチブをとりながら、九州地区の実態にあった体育心理学の授業開発を担っていくことが望ましいように思う。

5. 結論

九州地区国立大学の保健体育科教員養成課程(中学と高等学校の教員免許取得)で開講されている体育心理学関連科目の授業内容を調査した結果、専門性の高い専任教員が担当している場合が多く、この体制は今後も維持されるべきと思われた。また、シラバスによる書面調査のみであったことから今後は調査方法に更なる工夫を要するが、教員養成に特化しているとは感じられない科目もあるようであり、今後は教育実習や卒業後の教育現場で体育心理学の理論や実践を活用できるような講義を提供していくべきであると思われた。この点については、九州スポーツ心理学会や日本スポーツ心理学会等がイニシアチブをとって、質の高い体育心理学の授業を全国で展開できる体制を構築すべきであると思われた。

6. 引用文献・参考文献

- デイヴィッド・エプスタイン(著),川又 政治(編),
スポーツ遺伝子は勝者を決めるか?,早川出版,
2014
- ジョン・エンタイン (著), 星野裕一 (編), 黒人
アスリートはなぜ強いのか? : その身体の秘密
と苦闘の歴史に迫る, 創元社, 2003
- 麓信義 (編), 運動行動の学習と制御, 杏林書店,
2006
- フランク・L. スモール, ロナルド・E. スミス,
ジュニアスポーツの心理学, 大修館書店, 2008
- 橋本公雄, 斎藤篤司, 運動継続の心理学: 快適自
己ペースとポジティブ感情, 福村書店, 2015
- 文部科学省, 国立大学改革プラン, 2013
[http://www.mext.go.jp/component/a_menu/edu
cation/detail/_icsFiles/afieldfile/2013/1
2/18/1341974_01.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2013/12/18/1341974_01.pdf)
- 文部科学省, 教員需要の減少期における教員養
成・研修機能の強化に向けて; 国立教員養成大
学・学部, 大学院, 附属学校の改革に関する有
識者会議報告書, 2017
[http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa
/koutou/077/gaiyou/_icsFiles/afieldfile/2
017/08/30/1394996_001_1.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/077/gaiyou/_icsFiles/afieldfile/2017/08/30/1394996_001_1.pdf)
- 文部科学省, 中学校学習指導要領解説保健体育編,
東山書房, 2018
- 中込四朗, 伊藤豊彦 (編), よくわかるスポーツ心
理学, ミネルヴァ書房, 2012
- 西田保 (編), スポーツモチベーション: スポーツ
行動の秘密に迫る!, 大修館書店, 2013
- 佐藤正伸, 荘仲仁, 連玉輝, 王傑賢, 林伯修, 体
育教員養成教育における体育・スポーツ学科目
の日台比較, 教育学部紀要, 50巻, 167-179, 2016
- 杉原隆, 新版運動指導の心理学, 大修館書店, 2008
- 杉原隆 (編), 生涯スポーツの心理学: 生涯発達の
視点からみたスポーツの世界, 福村出版, 2011
- 土屋裕陸, わが国のスポーツ心理学の現状と課題,
心身医学, 58巻, 159-165, 2018

表1.九州地区国立大学教員養成学部の体育心理学関連科目の特徴

| NO. | 教科名 | 担当者名(開講大学名) | 担当者 | 開講時期 | 開講学年 | 開講間隔 | 必修 | 教員養成への特化** |
|--|-----------------|-------------|-----|-------|------|------|------|------------|
| 1 | 体育・スポーツ心理学 | 兄井 彰(福岡教育) | 専任 | 後 | 2年 | 隔年 | 選択必修 | あり |
| 2 | 体育心理学 | 山津 幸司(佐賀) | 専任 | 後 | 3年 | 毎年 | 選択必修 | あり |
| 3 | 体育心理学 | 山内 正毅(長崎) | 専任 | 前 | 3年 | 毎年 | 選択必修 | あり |
| 4 | 体育心理学 | 橋本 公雄(熊本) | 非常勤 | 後 | 2年 | 隔年 | 選択必修 | ? |
| 5 | スポーツ心理学 | 杉山 佳生(大分) | 非常勤 | 前(集中) | 3年 | 毎年 | 選択 | ? |
| 6 | 体育学I(体育心理学を含む。) | 日高 正博(宮崎) | 専任 | 前 | 2年 | 毎年 | 未定 | ? |
| 7 | 体育心理学I | 藤田 勉(鹿児島) | 専任 | 後 | 2年 | 毎年 | 未定 | ? |
| 8 | 体育心理学II | 藤田 勉(鹿児島) | 専任 | 前 | 3年 | 毎年 | 未定 | ? |
| 9 | 体育心理学演習 | 藤田 勉(鹿児島) | 専任 | 後 | 3年 | 毎年 | 未定 | ? |
| 10 | 体育心理学 | 増澤 拓也(琉球) | 専任 | 前 | 2年 | 毎年 | 選択必修 | ? |
| *各科目のシラバスは巻末に付録として掲載、NO.と付録のシラバスの番号は一致させてある | | | | | | | | |
| **「教員養成への特化」はシラバスから判断するには難しかったため参照程度にとどめるべきである | | | | | | | | |

表2.九州地区国立大学教員養成学部の体育心理学関連科目で用いられている教科書・参考図書の特徴

| 教科書名 | 著者名 | 出版社 | 利用数 | 記載大学 |
|-----------------------------------|----------------|---------|-----|------------|
| 新版運動指導の心理学 | 杉原隆 | 大修館書店 | 4 | 佐賀、長崎、鹿児島2 |
| 生涯スポーツの心理学 | 杉原隆(編) | 福村出版 | 2 | 鹿児島2 |
| スポーツ遺伝子は勝者を決めるのか? | デイヴィッド・エプスタイン | 早川書房 | 2 | 鹿児島2 |
| 黒人アスリートはなぜ強いのか? | ジョン エンタイン | 創元社 | 2 | 鹿児島2 |
| 文部科学省中学校学習指導要領及び解説、高等学校学習指導要領及び解説 | 文部科学省 | | 1 | 長崎 |
| スポーツモチベーション | 西田保(編) | 大修館書店 | 1 | 鹿児島 |
| 運動継続の心理学 | 橋本公雄・斎藤篤司 | 福村書店 | 1 | 鹿児島 |
| ジュニアスポーツの心理学 | フランク スミス他 | 大修館書店 | 1 | 鹿児島 |
| 運動行動の学習と制御 | 麓信義(編) | 杏林書店 | 1 | 鹿児島 |
| よくわかるスポーツ心理学 | 中込四朗、伊藤豊彦、山本祐二 | ミネルヴァ書房 | 1 | 鹿児島 |

付録

本研究にて分析対象としたシラバスの引用元URL
(2018年11月末現在アクセス可能であることを確認済み)

記載内容は開講大学、開講科目名、担当者名、参照URLの順に記載

1. 福岡教育大学教育学部，体育・スポーツ心理学，兄井彰
http://syllabus.fukuoka-edu.ac.jp/ext_syllabus/syllabusReferenceContentsInit.do;jsessionid=tmNwv-a00XctwJJbtLi4Z1bC.kmap2?subjectId=008700050509&formatCode=1&rowIndex=1208&jikanwariSchoolYear=2018
2. 佐賀大学教育学部，体育心理学，山津幸司
http://syllabus.sc.admin.saga-u.ac.jp/ext_syllabus/syllabusReferenceContentsInit.do;jsessionid=3CIYNzOIQYlhBR8qQ8LBBCcx.kmap2?subjectId=026300220647&formatCode=1&rowIndex=0&jikanwariSchoolYear=2018
3. 長崎大学教育学部，体育心理学，山内正
https://nuweb.nagasaki-u.ac.jp/campusweb/campusquare.do?_flowExecutionKey=_cB77A11DB-6586-9F05-66BD-5E8D1868D983_k44ACEAA2-90A3-E2ED-BE05-9B2F369CA2CE
4. 熊本大学教育学部，体育心理学，橋本公雄
http://syllabus.kumamoto-u.ac.jp/pub/syllabus.html?locale=ja&sylocale=&nendo=2017&jikanwari_shozokucd=07&jikanwaricd=10390&nendoS=2017&jikanwari_shozokucdS=&kaikoS=&kamokuS=&jikanwaricdS=&tanto_kyoinS=橋本&keywordS=&limitS=100
5. 大分大学教育学部，スポーツ心理学，杉山佳生
http://www.ed.oita-u.ac.jp/syllabus/syllabus_educ/files/6249.html
6. 宮崎大学教育学部，体育学I(体育心理学を含む。) ，日高正博
https://carte.eden.miyazaki-u.ac.jp/files/syllabus/2018/2018_C9451.pdf
7. 鹿児島大学教育学部，体育心理学I，藤田勉
https://eduestwl.edu.kagoshima-u.ac.jp/ac_syllabus/free_time_table.php
8. 鹿児島大学教育学部，体育心理学II，藤田勉
https://eduestwl.edu.kagoshima-u.ac.jp/ac_syllabus/free_time_table.php
9. 鹿児島大学教育学部，体育心理学演習，藤田勉
https://eduestwl.edu.kagoshima-u.ac.jp/ac_syllabus/free_time_table.php
10. 琉球大学教育学部，体育心理学，増澤拓也
https://tiglon.jim.u-ryukyu.ac.jp/Portal/Public/Syllabus/DetailMain.aspx?lct_year=2018&lct_cd=304071011&je_cd=1